

機関番号：32074

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520308

研究課題名 (和文) フローベール『ヘロディアス』生成批評研究

研究課題名 (英文) Genetic study of Flaubert' s *Hérodias*

研究代表者

大鐘 敦子 (OGANE ATSUKO)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：50350541

研究成果の概要 (和文)：フローベールの最晩年の短編『ヘロディアス』は、「フローベールの文体の極致」としばしば指摘され、膨大な科学的資料に基づいて創作されている。本研究ではこの『ヘロディアス』の文体の錬金術の創造過程を自筆草稿における生成批評研究 (内的生成) およびヘロディアス＝サロメ神話の間テクスト性の研究 (外的生成) を並行して行い、これまでで最も総合的な解明を試みて、『ヘロディアス』を19世紀最大のファム・ファタル神話形成の起源の一つとして新たに位置づけた。

研究成果の概要 (英文)：Among Flaubert' s works, *Trois Contes* is often considered to be the pinnacle of his writing, and the last of these, *Hérodias*, is based on considerable scientific documentation. We propose to analyze synthetically the process of its aesthetic alchemy, not only by exploring genetic dossier (endogenèse), but also by examining the intertextuality (exogenèse) in the mythological dimension of Hérodias-Salomé. We will concretely examine and transfer the manuscript, l' avant-texte (plans, scenarios and drafts) of "Salome' s Dance" first written in French literature by the latest analogical (similar) transcription and thus reexamine this process of aesthetic alchemy, in recognizing this novel as one of the greatest in the mythological formation of the "Femme Fatale" in the nineteenth century.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：19世紀フランス文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学 (英文学を除く)

キーワード：フローベール、サロメ、ヘロディアス、生成研究、草稿、比較文学

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、『ヘロディアス』が重要な文学史的意義を有するにもかかわらず従来徹底した実証研究が等閑視されてきたことに着目し、2004年に慶應義塾大学文学研究科に学位請求論文 (仏語・2005年論文博士号取得)

を提出し、その中で作品の錬金術とその象徴性を多角的に解明すると同時に、象徴主義とサロメを主題としたその後の文学に与えた比較文化・比較文学研究を遂行し、これまででもっとも体系的な『ヘロディアス』研究を展開し出版した (*La genèse de la danse de*

*Salomé—L'Appareil scientifique et la symbolique polyvalente dans Hérodias de Gustave Flaubert*, 2006年、慶応義塾大学出版会)。この博士論文の対象となった『ヘロディアス』研究の「サロメのダンス」に関しては、従来のボナコロソ版を用いて生成研究を行っていたが、今回の研究では、現在最も進んでいる転写方法を採用して、「ダンス」に関する草稿をすべて整理し、新しい転写方法で転記して公表するとともに、より正確に広範囲に分析することを目的とした。

草稿研究に関しては、1960年代以降、フランスを中心としてフローベールの草稿は世界的な規模で草稿の転記と生成研究が行われ、近年はその転記方法が視覚的にもより原本に近いものとなってきた。最晩年の作品『ヘロディアス』に関しては、イタリアのボナコロソ研究グループによる校訂版、*Corpus Flaubertianum* (Nizet, 1991)のみが草稿を網羅して分類、整理しているものの、近年この校訂版の複雑な転写方法が少なからず問題視されており、早期の転写方法見直しと電子テキスト化が望まれてきた。おりしも、2008年には、フランス国立科学研究所近代草稿研究部門(CNRS-ITEM)において、『ヘロディアス』を含む『三つの物語』等の草稿転写解読プロジェクトが開始され、ピエール＝マルク・ド・ピアジ所長からも研究協力の依頼があった。本作品の生成過程については、こうした草稿研究の進歩に合わせて、より精密で自筆草稿の状態にちかい transcription analogiqueと言われる最新の方法による転写が正確な分析に必要と思われた。そこで本研究では、まず本作品の転写にふさわしい最新の転写方法を決定するため、フランス国立科学研究所(CNRS-ITEM)でのフローベール草稿研究およびプルースト草稿研究等における転写の成果や『ボヴァリー夫人』の全草稿の解読と転写で世界的業績をあげているルーアン大学フローベール研究所の転記解読プロジェクトの成果等を比較検討したうえで、特に「サロメのダンス」に関するすべての下書き原稿や読書ノートの新たな判読・転写に着手した。また、フランス文学史上初の描写といわれる「サロメのダンス」を比較文学的視野からも検討するため、比較文学的資料も並行して渉猟することとした。

2. 研究の目的『ヘロディアス』は、19世紀フランス写実主義の父で現代では「言語の問題提起をした作家」といわれるフローベールの最後の完結した作品であり、フローベールの文体の極致といわれている。また、リアリスムの資料が象徴主義小説として結実した文学史の転換期に位置する重要な作品であるだけでなく、「サロメのダンス」をフランス文学史上初めて言語化した19世紀後半の

神話形成の原点である。本研究は、周辺の考証資料との異同や読書ノート、サロメ像創作の生成過程を精査することにより、リアリスムの考証資料がサンボリズムに結実した作家特有の文体的錬金術を、ダンスの形成過程の中で捉えるとともに、宿命の女「サロメのダンス」神話の起源の全貌を明らかにすることを目的とした。

- (1) 文体的錬金術の解明—エルネスト・ルナン等民族・政治分野の中心となる科学考証資料知がヨハネを供犠に付する宗教作品としてサンボリックな文体に変貌する場を精査した。
- (2) 「サロメのダンス」の起源の解明—ユダヤ太守ヘロド・アンティパスの妃ヘロディアスの人物像とサロメ像を結ぶ大地母神キュベレー像およびキュベレーの祭儀が宿命の女像の起源に取り込まれる場の生成研究。また、作家の他の先行作品との影響関係の分析。
- (3) ボナコロソ版の問題点解明—1)と2)の精細な草稿解読・転写作業を通じて従来のボナコロソ版転記方法では判読が難しかった箇所について、自筆原稿との比較による異同を調べ、転記をする。

### 3. 研究の方法

- (1) 『ヘロディアス』転写方法・技術の決定  
まず最初に、フローベール、プルーストなど生成研究の主要な対象で世界的に草稿研究が進む作家について近年の生成研究の現状と批評版の問題点、転写の方法論等の調査を遂行した。研究遂行開始における疑問点等については、パリ国立科学研究所近代草稿部門の所長およびフローベール研究所長と意見を交換し、転記作業の問題点のヒアリングを行った。またルーアン大学フローベール研究所でもヒアリングを行った。
- (2) 先行資料との差異の解明  
フローベールが渉猟した資料の中で、先行資料のなかでもとりわけ科学的・宗教的資料との異同を精査する。パリ国立図書館から、『三つの物語』のマイクロフィルムを購入し、慶応義塾大学三田メディアセンターにおいて判読・転写作業を遂行するとともに、慶応義塾大学図書館ILLサービスに調査依頼を出し、パリ国立図書館や海外各地の図書館から資料を取り寄せ照会した。また夏期休暇を利用してパリ国立図書館及びルーアン大学フローベール研究所、カントルー市役所フローベール図書室等で資料収集す

るとともに、分類Ms. 23663 (1-2) のもとにパリ国立図書館に所蔵されている草稿の直接の転写・解読作業を進めた。

#### 4. 研究成果

初年度は生成批評研究の端緒を開くべく、望まれうる最も適切な『ヘロディアス』の転写方法を模索し、フローベールだけでなくブルスト等の優れた草稿校訂版と生成研究を比較検討した。その校訂者や生成研究者に知的協力を仰ぎ、転写方法の決定をした上で、実際の転写作業に入った。まず国内にて、国内外の生成研究の優れた研究者とコンタクトをとり、パリ国立図書館から、『三つの物語』のマイクロフィルムを8月までに購入し、慶應義塾大学日吉メディアセンターにおいて『ヘロディアス』のマイクロフィルムの関連箇所を選別し、ボナコルソ校訂批評版 *Corpus Flaubertianum* の問題点を確認しながら転写作業を開始した。作業を通じて浮かび上がった転写方法の問題点を整理して、フランスで転写技術の是非を議論・確認すべく、Rouen 大学フローベール研究センターを訪問した。また、Canteleu メディアセンターでは関連書物を調査した。一方、パリではフランス国立図書館草稿室にて上記の作業の成果とマイクロフィルムで解読が困難な箇所について、自筆草稿閲覧の許可を取り、国内で転写したときに問題が見つかった箇所について判読を進め、草稿の状態を確認して、正確な転写を完成させた。また、パリ国立科学研究所草稿研究部門 (ITEM・CNRS) 所長と、フローベール研究班所長にヒアリングを行った。初年度はまず、「サロメのダンス」のプランとシナリオを転記し、ボナコルソ版との相違を確認したうえで、論文にまとめた。

次年度は、前年に開始したパリ国立図書館所蔵のフローベール『ヘロディアス』(分類番号N. a. f. Mss. 23663\_1-2)の草稿転記作業を続行し、フランス文学における最初の「サロメのダンス」の自筆原稿のうち、三つのダンスDanse 1, `Danse 2, Danse 3に関わる「下書き原稿」の転記作業をすべて遂行し、草稿の執筆順序を確定した。また、初年度に購入した草稿のマイクロフィルムのコピーでは判別できない箇所および、作家による鉛筆書きの記入等に関しては、国立図書館site Richelieuにて自筆原稿を閲覧・調査し、正確な結果を転記に反映した。当初の研究実施計画に基づき、これら进行分析し成果を海外で発表した。そのうち二件が海外の査読を通ったものである。

- (1) 「関東学院教養論集」第20号に掲載すると同時に、昨年に引き続き、Rouen大学フローベール研究所のサイト上で、ダンスに関する草稿を整理し、パリ国立図書館

の電子図書館Gallicaに相当する番号を中心に目録を作成し掲載した。

- (2) 2009年度Rouen大学フローベール研究所論集 *Revue Flaubert* 第9号の *Confusion des genres* 『ジャンルの混淆』に、昨年および今年の転記成果を用いて、ダンスにおける詩的イメージと散文的イメージの混淆による音韻の問題を取り上げ、内的生成に関する分析を発表した。研究成果としては、草稿の見える状態をそのまま再現する最新のédition numériqueの方法で付録Annexeに掲載し、「サロメのダンス」の文学史上初の描写の「下書き原稿」の生成過程をルーアン大学フローベール研究所サイトに公表した。
- (3) 最新の電子校訂版に関する情報収集と技術の習得に関しては、リヨン国立科学研究所による同作家の未完の大作『ブヴァールとペキュシェ』の約3000枚の「読書ノート」自筆原稿のデジタル化国際プロジェクトのメンバーとして、プロジェクト・リーダーのStéphanie Dord-Croulé女史にヒアリングをした。また、2010年3月11日にDord-Croulé女史を招聘して開催された立教大学でのワークショップでは、本研究での転写の成果を反映させた転記作業の成果を報告した。

最終年度は、過去二年間に着手したパリ国立図書館所蔵のフローベール『ヘロディアス』(分類番号N. a. f. Mss. 23663\_1-2)の草稿の解読を続行し、フランス文学における初の「サロメのダンス」に関連する草稿の転記作業すべてを完了した。判別できない箇所および、作家による鉛筆書きの記入等に関しては、引き続きフランス旧国立図書館site Richelieuにて自筆原稿閲覧の許可を取って調査し、正確な結果を転記に反映した。特に鉛筆による加筆は、インターネット上の電子図書館Gallicaでは判別が難しく、現地での実物の確認が大変役立った。

また当初の研究実施計画に基づき、三年間の転記の成果を用いて、三つのダンスの生成論的分析と、神話学的分析を学際的に行った。周辺の調査については、パリ市歴史図書館で、草稿手帳の調査を行った。また同時に『ヘロディアス』との間テクスト性が指摘されてきたギュスターヴ・モローについて、ギュスターヴ・モロー美術館特別資料室および別館にて調査を行った。美術分野の調査については、オルセー美術館特別資料室にて、サロメ研究の第一人者Mireille-Dottin Orsiniとともに十九世紀当時の官展について調査を行った。

一方、「サロメのダンス」の研究成果を反

映し、19世紀から21世紀にかけて横断的に翻案作品全体における意味を問い直す分析も行った。『ヘロディアス』の文学史における外的生成の重要性を論じた比較文学・比較文化論《Vers un nouveau mythe de Salomé》は、モンペリエ大学のオスカー・ワイルド100周年記念号（英文論集）に特別招待論文（仏語）として掲載された（2011年1月）。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ① 大鐘敦子, 「フローベール『ヘロディアス』生成研究—「第一のダンスの形成」, 『関東学院教養論集』, 関東学院教養学会, 査読無, 第20号, 2010年, pp. 1-23 (日本学術振興会科学研究費補助金助成研究基盤研究(C)課題番号: 20520308 報告書2)
- ② Atsuko Ogane, 《Vers un nouveau mythe lunaire de Salomé—Modernité de la mise en scène de la danse de Salomé》, *Cahiers victoriens et édouardiens*, 査読有, Presses universitaires de la Méditerranée, n. 72, textes recueillis par Marianne Drugeon, Centre d'études et de recherches victoriennes, édouardiennes et contemporaines de l'Université Paul-Valéry, Montpellier III, octobre 2010, pp. 167-184.
- ③ Atsuko Ogane, 《Hérodias, splendeur du vers et de la prose : le serpent ou la genèse de la femme fatale dans la danse de Salomé》, *Revue Flaubert*, 査読有, 2009, 《Flaubert et la confusion des genres》.  
<http://flaubert.univ-rouen.fr/revue/article.php?id=36>
- ④ 大鐘敦子, 「フローベール『ヘロディアス』生成研究—「サロメのダンス」の草稿転記と作業の問題点」, 『関東学院教養論集』, 関東学院教養学会, 査読無, 第19号, 2009年, pp. 1-23 (日本学術振興会科学研究費補助金助成研究基盤研究(C)課題番号: 20520308 報告書1)  
(《Manuscrits》): [http://flaubert.univ-rouen.fr/ressources/trois\\_contes.php](http://flaubert.univ-rouen.fr/ressources/trois_contes.php)

〔図書〕（計1件）

- ① 大鐘敦子, 慶應義塾大学出版会, サロメのダンスの起源: フローベール・モロー・マラルメ・ワイルド, 2008, 339

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

大鐘 敦子 (OGANE ATSUKO)  
関東学院大学・法学部・教授  
研究者番号: 50350541

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: